



苦手教科 放っておかないで何とかしよう



今日3月8日(火)は公立高校の一般入試(学力検査)、明日9日(水)は面接・適正検査です。2年生は364日、1年生は728日後に受検することになります。みなさんも知っているように、高校入試の合格・不合格は入試当日の学力検査だけで決まるものではありません。多くの私立高校も同じですが、例えば公立高校の入試では、みなさんの中学校での学習や生活の様子を記録した「調査書」や面接・適正検査を加えて、総合的に判定されます。「調査書」の中で数値となって明記されるのが「学習の記録」です。これは、次の項目を $A + B + 2(C+D)$ として合計した数値です。

- A 1年生の学年末の各教科の評定(5段階)の合計
- B 2年生の学年末の各教科の評定(5段階)の合計
- C 3年生の1月中旬までの各教科の評定(5段階)の合計
- D 3年生の1月中旬までの音楽、美術、保健体育、技術・家庭の評定(5段階)の合計

ややこしく感じる人もいるでしょうが、要するに、3年生の国語、社会、数学、理科、英語の評定は2倍、さらに音楽、美術、保健体育、技術・家庭については、入試当日に学力検査がないためもう一度加算され4倍になるということです。やはり3年生になってからの頑張りが必要なウエイトを占めることは間違いありません。1・2年で思うようにいかなかった人も、3年生で挽回(ばんかい)することができます。また、総合力(合計の数値等)で判定されることにはなるのですが、極端に成績の悪い教科があると不利になってしまうことも確かです。

さて、学年末テストの結果はどうだったでしょうか。自分ではがんばったつもりなのに、点数がよくなかったという人もたくさんいるはず。「勉強しやすい、勉強する意欲がわく」という教科がある一方、「やる気にならない、勉強していてもすぐわからなくなってしまう」という教科もあります。多くの場合、成績がよい教科が得意、悪い教科が苦手となってしまうがちですが、1年生も、そろそろ得意・不得意(苦手)教科が分かれてきているのではないのでしょうか。

得意・不得意(苦手)はあってよいものです。というか、誰にでもあります。まずは、そのことを受け入れることが大切です。たまに何もかもできそうな(と思い込んでしまう)人もいますが、ある東大の先生が「そんな学生にお目にかかったことはない。天才と思われる学生にも得意・不得意(苦手)はあります」と断言しています。学校の勉強に限らず、人はそれぞれ得意なことが違うので、自分に合ったジャンルを見つけて、自分に合った方法で力を発揮すればよいのです。

とはいえ、学校の成績、高校入試などのことを考えると、「このまま放ってもおけないよな」「何とか克服したいな」と思っている人も多いと思います。もちろん「こうすればよい」という特効薬はありませんが、苦手教科克服の第一歩を踏み出すための3つのヒントを紹介します。これらの方法は、過去に私が担任していた生徒で、苦手教科を克服した(そう思われるくらい成績が向上した)生徒に教えてもらったものですが、もしこれ以外にもよい方法があれば、教えてください。みなさんの後輩にも紹介していきます。

① その教科の勉強が、実生活の中でどのように役立つのか、先生に聞く。本・ネットで調べる。

みなさんの実生活に役立ち、必要だからこそ、学校で教科として勉強するのです。その教科の勉強が、身近なところで役立っていることば分かれば、勉強しがいがあります。

② その教科が得意な人に、得意な理由や勉強方法を聞いたり、休日に一緒に勉強したりする。

得意な人のノートを見せてもらう。勉強法を聞いてまねをする(ex. 歴史の年代を覚えるときは、一定のリズムで歩きながら暗記した!)。クイズ形式で問題を出し合い、正解数を競うゲームにする。

③ 苦手教科を一番先に勉強し、得意教科を後にする。苦手教科の教科書・ノートは必ず音読する。

苦手教科を勉強していると眠くなる人が多いようです。声を出すことにより、眠気を防止するだけでなく、脳の働きを高め、やる気を出すことにつながります。